

支 援 事 業 報 告 集



愛芸アシスト基金

2025
年度

ご賛同いただいた皆様へ

日頃より愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。

また、本学主催の展覧会や演奏会にも足をお運びいただき心より御礼申し上げます。

愛知県立芸術大学は、創立60周年を迎えます。

これまでに国際的に活躍する芸術家のみならず、芸術文化に寄与している多くの卒業生を輩出し、その数は一万人以上になりました。

今後も、芸術の可能性を探求した学生達が「芸術の力」を身につけ、やがてこの地域や世界で活躍していきます。

これも県民や地域の皆様、そしてなによりこの愛芸アシスト基金にご賛同をいただきました皆様のご理解とご支援の賜物です。

本学は、これからも将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、芸術活動を通して社会や世界に発信していきます。

皆様に愛される芸術大学として、一層の努力をしてまいりますので、何卒、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



愛知県立芸術大学
学長 白河 宗利

2025年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

01

オペラ公演 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》

2025年12月6日(土)、7日(日)

名古屋市青少年文化センター アートピアホール

02

愛・知・芸術のもりから

2025年8月～2026年2月 計4回

SMBCパーク栄

03

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援

2025年4月～2026年3月 展覧会開催回数：13回

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA

04

障害者福祉支援事業としての陶芸アート

出前講座

2026年1月16日(金)、29日(木)

社会福祉法人ひまわり福祉会 地域活動支援センターかたつむり

あいち・アールブリュット優秀作品特別展

2026年3月10日(火)～3月15日(日)

愛知芸術文化センター アートスペース12階G・H

01 大学オペラ公演2025 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》



長久手市文化の家森のホールをホームグラウンドとしてやってきた我が大学オペラ公演。2025年度公演が特定工事休館につき同館で出来ないという事態となり、長久手市文化の家以外のホール単独開催を余儀なくされた。検討の結果、名古屋市青少年文化センターアートピアという、名古屋市のいわば都心で公演をするという、初の試みとなった。幸い、名古屋市文化振興事業団の皆様、同館を会場として開催される催し物をこれまで多く担当した経験のある舞台監督の磯田有香非常勤講師、関連業者の皆様の助言で開催までこぎつける事が出来た。

さて、今回の《ドン・ジョヴァンニ》における題名役は謂わば自身の欲望に忠実な愛のコレクター（「美」の追求者）、騎士長やアンナ、エルヴィラをキリスト教的価値観に則った信奉者（「善」の追求者）。このオペラを「美」と「善」の対立と見た美術学部の佐藤直木教授は、ドン・ジョヴァンニ自身のコレクション充実のためにあらゆる女（美術品）を漁食、その成果（女性の絵画）で自身の部屋は満たされるが、最後に騎士長（石像彫刻）の復讐を受ける、という舞台美術プランを提示され、その構想に基づいて飯塚励生非常勤講師演出、

新進気鋭の澤村杏太郎非常勤講師が指揮をされた。加えてアートピアが有している2つの^せ迫りを効果的に利用したこと、本学美術学部の卒業生の皆様に様々な女性をモチーフとした絵画のデータを提供いただき、舞台上のドン・ジョヴァンニの蒐集品として、またアートピアのロビーの至るところに掲出できたこと…どれをとっても近年にないチャレンジな公演になったのは言うまでもない。

2026年度公演は場所を再び長久手市文化の家に戻しての公演。2024年度に続いて《フィガロの結婚》を取り上げることとなった。再演でなく、新演出とすべく、舞台美術会議を進めているところである。ただ、折からの資材価格、関連スタッフ人件費高騰等により、難しい局面を迎える大学オペラ公演。愛芸アシストを通じて、本学オペラ公演を支えていただければ幸いである。

初鹿野 剛
（音楽学部声楽専攻教授、大学オペラ制作責任者）



02 愛・知・芸術のもりから



名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄で開催されるコンサート・シリーズ「愛・知・芸術のもりから」は、2025年度で16年目を迎えました。このコンサートは、音楽学部の各専攻・コースから選ばれた優秀な学生・卒業生・修了生たちが演奏を披露できる舞台となっています。そして、若い彼らを後押しする重要なキャリア支援にもなっております。この経験が励みともなり、これまでに出演した若い演奏家たちはその後も各地で活躍しております。また、このコンサートは愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会ともなっております。

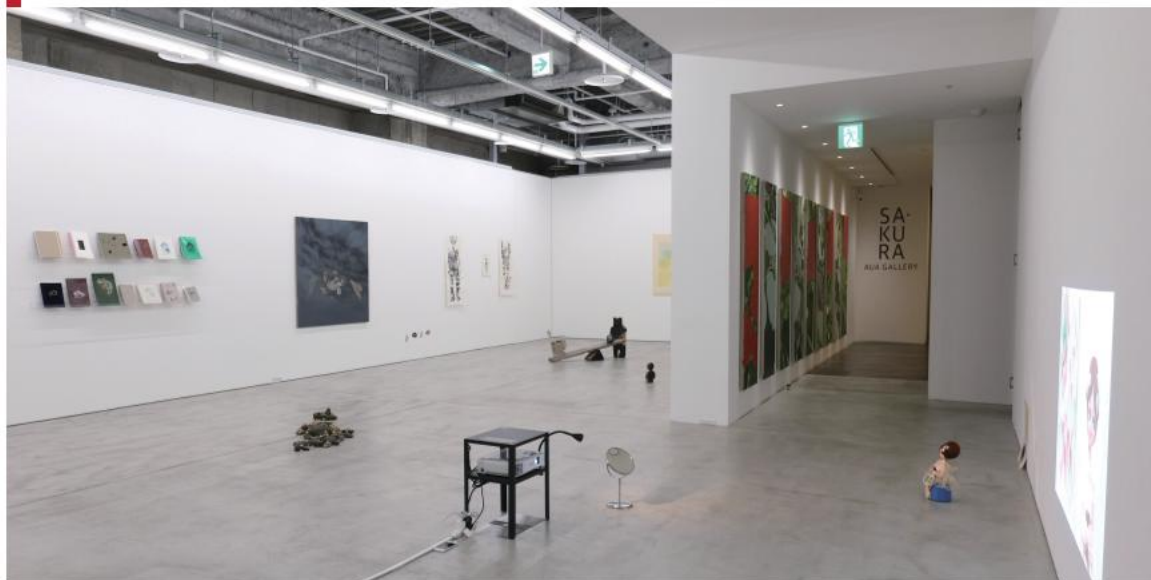
2025年度は、声楽、鍵盤楽器、弦楽器、管・打楽器の修了生から計4グループが出演させていただき、毎回多くのお客さまに楽しんでもいただきました。本学出身の若い演奏家たちがこのような経験をさせていただいていることに、心から感謝いたします。

今後とも皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

成本 理香（音楽学部長兼音楽研究科長）



03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援



「光射す器 種蔵の影 再考」

2025年度は、年間を通じて13回の展覧会を開催いたしました。内訳は以下の通りです。

(1) 活躍する修了生個展

7月21日～8月7日は油画・版画領域修了生の中山梨絵による陶と絵画を連関させた「釉体離脱」を開催。

10月25日～11月16日は油画・版画領域修了生手塚好江の「In/Out-between」を開催し、秋庭史典氏(名古屋大学大学院情報学研究科)、倉地教授とのギャラリートークも行われました。12月20日～1月18日は博士後期課程修了生須貝旭の「落葉抄RACVYOXO」を開催し、辞書の文字と風景写真を重ねた作品を展示しました。3月8日～28日は油画・版画領域修了生浅野絵理の「かすかな顕在」を開催し、薄墨による木版作品を展示しました。

(2) 教職員による企画展

5月14日～6月1日は「触れて、知る…『愛知パーカッション・フェア2024』報告展」を森教授・深町教授が企画。6月7日～22日は岩永准教授企画の「日本画・伝統を学ぶ」を開催しました。6月28日～7月13日は「瀬戸現代美術展2025プレエキシビション“greens”」を文谷学芸員が企画し、本学卒業生を含む瀬戸を拠点に活躍する作家を紹介しました。8月23日～9月21日は「光射す器 種蔵の影 再考」を井出教授が企画。9月27日～10月19日は有持教授(ALIMO)企画の「風景／榊原澄人+ALIMO展」を開催し、アニメーションに絵画との親近性を抱く両者のアニメーションと原画を展示しました。

(3) 海外作家招聘展・アーティスト・イン・レジデンス成果発表展
4月11日～5月4日は彫刻家ガブリエレ・ホルンダッシュの個展「Letter Dresses」を竹内教授が企画。11月24日～12月14日はアーティスト・イン・レジデンスで招聘したディンフ・デ・ウィルド氏の滞在中の成果発表展「Emerging Forms at the Edges of Now(今この瞬間に現れる新たな形態)」を開催。1月24日～2月15日は文谷学芸員企画によるイ・ミンハ個展「柔らかな骨」を開催し、自然へと還る膠に着目した展示を行いました。

(4) 博士学位論文・作品展

2月20日～26日は油画・版画とデザインの領域の3名が、高い専門性のもとに結実した創作と論文の研究成果を紹介しました。

以上詳しくは本学ウェブサイト、「SA・KURA特設サイト」からご覧ください。

本年も愛芸アシスト基金より貴重なご寄附を賜り、ありがとうございました。

高橋 伸行(芸術資料館長)



須貝旭個展「落葉抄RACVYOXO」 photo ©ToLoLo studio



「瀬戸現代美術展2025プレエキシビション“greens”」 photo:Tamotsu Kido



(写真1 串で細かな描写を加える)

この活動は、障害のある方々の芸術活動を支援するため、芸術系大学の教員等が講師となり障害者支援施設等を訪問して絵画や陶芸等のアート活動を支援していく活動です。

今年度の出前講座では、あらかじめ磁土でつくられた直径7寸(約21cm)の素焼き皿に、「呉須(ごす)」と呼ばれる青色顔料を用いて絵付けを行いました。素焼きとは、粘土で成形した後、約850℃で一度焼成した状態の器のことです。素焼きの器は水分をよく吸収する性質があり、その特性をいかして制作を進めました。

本講座では、和紙を用いた表現に取り組みました。ちぎったり破ったりしてできた紙のカタチからイメージを見出し、「見立て」によって描く制作方法です。まず、和紙の質感や形状を丁寧に観察することから始めました。紙をちぎることによって生まれる偶然のカタチは、一つとして同じものがなく、その断片は新たなイメージを喚起するきっかけとなります。こうした「見立て」の行為は、目に見えるカタチを手がかりにしながら、各自の内面にある記憶や感覚と結びつき、想像力を大きく広げるものです。このプロセスを通して、参加者は既成のイメージにとらわれることなく、自由で柔軟な発想による表現へと導かれていきました。実際の制作では、自由にイメージを広げて描く方もいれば、猫やオオカミ、タコなどの具体的なモチーフとして捉える方も見られました(写真1)。また、ちぎった和紙のユニークなカタチを組み合わせ、リズム感のある画面構成に挑戦する方も見受けられました(写真2)。



(写真2 偶然できたカタチを構成する)

今回の制作支援にあたっては、大学院授業「インクルーシブ・アート」を受講している院生とともにサポートを行い、それぞれの発想や個性が十分に発揮されるよう配慮しました。さらに、素材の理解を深める機会も設けました。和紙が植物の繊維からできていることや瀬戸で採集されていた呉須原料の歴史についても紹介し、陶芸の産地ならではの魅力を伝えながら制作を進めました。講座の最後には、完成した作品について参加者一人ひとりに制作意図や想いを語っていただき、全員で鑑賞会を行いました。互いの表現に耳を傾け、共感を深める時間を共有したことで、参加者の皆さんは達成感に満ちた表情で講座を終えることができました。

制作された作品は焼成後、2026年3月に愛知芸術文化センターにて開催された「あいちアール・ブリュット優秀作品特別展」(2026年3月10日～15日)において、活動の様子とともに展示されました。

今回の出前講座は、参加者にとって有意義で充実した体験となったようで、施設担当者からは今後の継続的な芸術活動についてご相談をいただきました。今後は、陶芸制作を継続的に実施できる体制づくりについて提案するといった働きかけを行っていきたいと考えています。

佐藤 文子(美術学部陶磁専攻准教授)

愛芸アシスト基金からのお知らせ

愛知県立芸術大学は、開学60周年という節目を迎えるにあたり、記念事業として特別バージョンの演奏会や展覧会を開催いたします。愛芸アシスト基金の寄附金の一部を本記念事業にも活用させて頂く予定です。

ご寄付

- 個人の方からのご寄附:1口 1万円～
 - 法人からのご寄附:1口 10万円～
- ※何口でもお申し込みいただけます。

寄附者特典

- 大学発行の情報誌(学報等)、及び各種の行事・イベントのご案内の送付
 - 大学主催の演奏会・展覧会にご招待
- ※ご招待公演、参加人数は当方より指定させていただきます。

60周年記念特典

- 寄附者のご芳名を寄附者銘版及び本学ウェブサイトに掲載
- 【同一年度内のご寄附が合計10万円以上の個人、30万円以上の法人の皆様】

お申込み方法

60周年記念事業ウェブサイトよりお申込み下さい。
(通常の愛芸アシスト基金のご寄附からでも同様にお申込み頂けます。)

【創立60周年記念事業】

美術

- ◆「第50回 美術学部教員展」
2026年10月28日(水)～11月1日(日)
愛知県美術館 ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

音楽

- ◆「卒業生と教員による合同弦楽オーケストラ特別演奏会」
2026年8月8日(土)
しらかわホール
- ◆「第59回 音楽学部定期演奏会」
2026年10月11日(日)、12日(月・祝)
愛知県芸術劇場 コンサートホール

60周年記念事業ウェブサイトはこちら
https://www.aichi-fam-u.ac.jp/anniversary_60/

